京都●あきらめないがん治療

驚異の最新治療

レーザー光療法 腹腔内がん治療

医療法人社団　貴正会
村上内科医院　院長　村上正志 医学博士

ここでは長年にわたり、他院でがん性腹膜炎と診断され、余命宣告でホスピスを勧められた方に対して少量の抗がん剤を用いて体に負担の少ない腹腔内・胸腔内がん治療を行い、長期延命の効率の高い実績を上げている。

そのうえ、抗がん剤や外科の手術が受けられない方にも安全に使える最新のレーザー光治療（特許申請予定）を導入しており、現在大変注目されている。

こちらで行うレーザー光治療は、がん治療のみならず、腰痛、膝関節痛、肩関節痛、肘関節痛等のさまざまな痛みに対しても非常に高い効果を示しており、さまざまな炎症性疾患に対する応用が非常に期待される。

●PROFILE 村上 正志（ムラカミ・マサシ）
京都府立医科大学卒業。
元京都府立医科大学客員講師。
統合医療、抗加齢医療、点滴療法、ハイパーサーミア（温熱治療）等、幅広い視点から、がん治療に取り組んでいる。

腹腔内がん治療

腹腔内がん治療とは、お腹の皮下に埋め込んだカテーテル（ポート）から直接お腹の中（腹腔内）に抗がん剤を投与する治療法である。（ポートの留置手術は保険適応）

腹腔内がん治療は一般的に行われている点滴の全身化学療法に比べ、腹腔内のがん細胞に直接作用するため腹部症状に対して効果が得やすく、かつ少量の抗がん剤を使用する為、副作用が少なく楽に治療が可能である。

最新のレーザー光治療

がん性腹膜炎の方に対してここでは腹腔内化学療法を用いて治療を行っている。しかし腹腔内の大きな腫瘤や結節により、腹腔内がん治療だけでは効果が不十分な方に対し、ここでは腹腔内がん治療とレーザー光を併用したがん治療を導入し効果をあげている。これは、がん細胞に集積しやすく加工（リポソーム化）した光感受性物質を点滴し、それが蓄積した腫瘍に対してレーザー光の照射を行う。そのレーザー光はがん細胞に蓄積した光感受性物質に特異的に反応するため、がん細胞のみを死滅させる仕組みとなっている。

さらにレーザー光は放射線と違い、正常細胞の核にはダメージを与えない特徴をもつため、治療による副作用はほとんどなく、安全で何度でも照射が可能である。

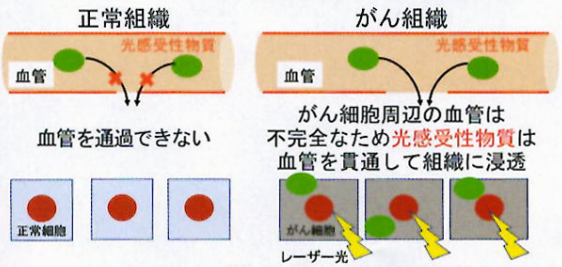
照射対象はPET－CTや超音波を参考にして照射位置を決めるため、体表から見えない内臓の病変に対してもレーザー照射が可能である。

また、驚くことにレーザー光は、出力を変えることで、強力な鎮痛効果も表している。

腰痛・股関節痛・腰関節痛・肩関節痛・肘関節痛など各種関節痛には非常に高い鎮痛効果を示している。とりわけ痛風発作では、たった一回の照射で歩行が可能になる方が多く一回の照射ですぐに歩行が可能になるという実績を、多くの症例で認めている。ヘバーデン結節や関節リウマチなどの慢性炎症に対しても、複数回の照射により可動域が改善し鎮痛効果が得られるなど、今後さまざまな炎症性疾患に対する応用が期待される。

痛風発作に対してレーザー照射を行うと直後より腫脹・疼痛が軽減する

レーザー光治療の仕組み



医療法人社団 貴正会
村上内科医院
https://murakaminaika.com/

※点滴療法（自由診療）は
完全予約制となります。

所在地◆京都府京都市山科区
四ノ宮垣ノ内町1

電話◆治療についてのお問い合わせ
075-591-4722（本部）